

# 折れたポプラよ

(平成十六年度寮歌)

高橋直樹君 作歌

山口駿君 作曲

一

折れたポプラよ

おまえは何を言わんとす  
酒注ぎ交わし乾した夜の  
見上げた月の傍らで  
おまえの匂いが映らない  
心配せなや友達よ  
永久に変わらず継いでやる  
たとえこの世が変われども  
俺や寮友らが歌うだろう  
生命の継ぎ目が終われども  
心配せなや友達よ  
お前は此処に生きている

二

折れたポプラよ

おまえは何を言わんとす  
緑が踊る夏の日も  
茜に溶ける秋の日も  
同じ生命を供にした  
肩を組もうぞ友達よ  
俺とお前は同じ土  
側になくともその根が  
歌声や思いを繋ぐだろう  
その身朽ちゆく運命ども  
肩を組もうぞ友達よ  
次代がお前を芽吹くだろう

三

折れたポプラよ

おまえは何を言わんとす  
別れの雪を踏みしめて  
固め歩んだ迪の未来  
春の色する夢なれや  
供に称えん友達よ  
思うは日々のいたずらか  
過ぎせる時間の限るに  
尽きぬ涙は言足りず  
見つめる春は違えども  
供に称えん友達よ  
六華が我等照らすかな